



PXI-H990

Multimedia Manager™

取付説明書

目次

安全にお使いいただくために	2
1.はじめに	4
2.外す	5
3.接続する	5
4.1 ベースユニットを取り付ける	6
4.2 マイクを取り付ける	9
5.確認する	9
6.システムアップの例	12

安全にお使いいただくために、必ずお守りください

- 本機の取り付けには、専門技術と経験が必要です。お買い上げ店での取り付けをお勧めします。
- ご使用前に、この取付説明書と別冊の取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。説明書の指示を守らなかったことによる不具合に対して、当社は責任を負いかねます。
- この取付説明書は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

分解・改造をしないでください。事故・火災・感電の原因になります。



ネジなどの小物類は、幼児の手の届かないところに保管してください。飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談してください。



ヒューズ交換は、規定容量（アンペア数）を守ってください。
事故・火災の原因になります。



DC12Vマイナスアース車以外に接続しないでください。
事故・火災の原因になります。



配線作業の前にはバッテリーのマイナス端子からアース線を外して、配線作業をしてください。感電・ケガの原因になります。



コードの被覆を切って、他の機器の電源を取らないでください。火災・感電の原因になります。



前方の視界を妨げる場所、ハンドル・変速レバーなど運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には、取り付けしないでください。事故・ケガの原因になります。



車体に穴を開ける場合には、パイプ・タンク・電気配線などを傷つけないでください。
事故・火災の原因になります。



取り付け・アース接続には、ハンドル・ブレーキ・タンクなどのボルトやナットを使わないでください。制動不能・火災の原因になります。



コード類は運転操作の妨げとならないように束ねてください。ハンドル・変速レバー・ブレーキペダルなどに巻き付くと、事故・故障の原因になります。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

通風孔・放熱板をふさがないでください。火災・故障の原因になります。



禁止

説明書に従って、正しく接続してください。火災・事故の原因になります。



禁止

コードをシートレールにはさんだり、突起部に当てたりしないでください。断線やショートにより、感電・火災の原因になります。



付属部品を指定通りに使い、しっかりと取り付けてください。事故・故障の原因になります。



禁止

水のかかるところ、湿気やホコリの多いところには取り付けないでください。火災・故障の原因になります。



禁止

取り付け・配線には、専門技術と経験が必要です。お買い上げ店に依頼してください。



1. はじめに

次のことに注意しながら取り付け作業を進めてください。

- 作業には時間がかかります。明るいうちに終了できるように余裕を持って作業してください。
- 取り付けは、車種・グレード・年式によって異なります。取り付けに関わる情報をお買い上げ店より入手してください。
- 動作確認の際に本機の操作を行いますので、取扱説明書も必ずお読みください。
- 希望する取り付け位置に対して、コードの長さが十分にあることを確認してください。
- 接続の際は、コードに付いているラベルや本説明書を確認しながら、注意して行ってください。
- 組み合わせる製品によって使用できない場合があります。組み合わせる製品の取付説明書も合わせてご覧ください。
- 不明な点はお買い上げ店、インフォメーションセンターにお問い合わせください。
- 仕様及び外観は、改良のために予告なく変更する場合があります。
- 本説明書のイラストは、印刷条件により、実物と印象が相違する場合があります。
- パソコン接続時、車内の温度が極端に高い（炎天下駐車）ときや低い（厳冬期駐車）ときは、常温になってからお使いください。極端な温度でのパソコンの接続は故障の原因となる場合があります。
- パソコン接続時のUSBケーブルの噛み込みによるショート断線に注意してください。故障の原因となる場合があります。
- 本製品を使用中に、パソコンなどのデータなどが破損・消失した場合でも、データなどの補償は一切いたしかねます。

1. 付属部品を確認し、工具／取り付け情報をそろえる。

IONBUSコード（6m） DVD Audio Linkコード（6m） タッピングネジ（M4・長さ14mm）



マイク（6m）



マイク端子
接続コード（6m）※1



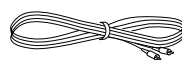
×4

六角レンチ

コードクランプ



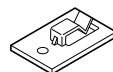
ブラケット※2



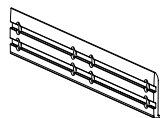
ブラケット
固定用ネジ（M4・長さ8mm）※2



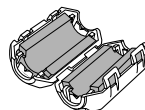
フェライト・コア



×4



×8



×2

※1 別売モニター（TVI-T990）内蔵マイクをRoad EQ用マイクとして使用するよう設定した場合のみ使用する。

※2 本機を2台取り付ける場合のみ使用する。

2. 車を安全で平坦な場所に停める。

パーキングブレーキをかけ、イグニッションキー（エンジンキー）を抜きます。



本機の接続には別売のバッテリー電源コード、アースコード、リモートアウトコードが必要です。

2. 外す

1. バッテリーマイナス端子を外す。



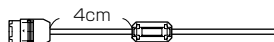
- コンピューターが装着されている車は、バッテリーのマイナス端子を外すとメモリーが消えてしまうことがあります。
- 一部の車種（外国車など）では、バッテリーのマイナス端子を外すと、電装系に不具合が生じる場合があります。

3. 接続する…接続することに ☐ OK に ✓ 点をつけてください。

1. はじめに

- 接続は、車の電装系を理解できる知識が必要です。曖昧な理解で作業を進めると車体に重大な影響を与える場合がありますので、専門業者に依頼することをお勧めします。
- 接続は「奥までしっかり差し込んで」ください。誤接続を避けるために、接続するたびに接続図にチェックマークを書き込んでください。
- 音声出力ケーブルを接続するときは、コード端子の色とターミナルの色を合わせてください。
 - ・ RCAコード、ピンコード家庭用機器の信号の受け渡しに利用されるRCA考案のコネクター付きコードをいいます。カーオーディオはもちろん家庭のステレオ／ビデオ／テレビ等に幅広く採用されています。白がオーディオの左チャンネル、赤が右チャンネル、黄色がビデオ信号です。
- 関連製品の接続に関する説明書も合わせてご覧になり、作業を進めてください。

2. 添付のフェライト・コアを、IONBUSコード両端の、取付の際に製品にコアが当たらない位置にセットしてください。（本機に接続する場合は、端子根元部分から約4cmの位置）



3. 10～13ページの「基本接続図」「システムアップの例」を参照して接続する。



注意 説明書に従って正しく接続してください。火災・事故の原因になります。

4. 接続しないコードは、コードの端にビニールテープを巻く。
 - アース線以外はボディー（アース）にショートしないようにしてください。
5. 正しく接続されているか確認する。
 - ✓ 点がもれているところはないか。
6. バッテリーマイナス端子を接続し、イグニッションキーをONにして動作を確認する。
 - 本機の電源が入るか（イルミネーションが点灯するか）。
7. 確認が終わったら電源を切る。
8. イグニッションキーを抜いて、バッテリーマイナス端子を外す。



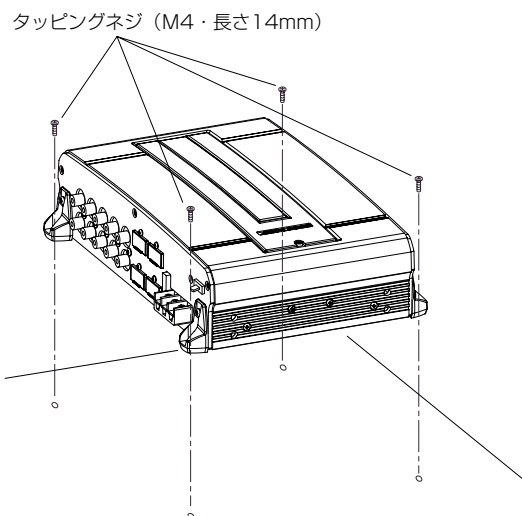
- 車両雑音から守るために
 - ・ アースコードを車体の金属部分に確実につなぎます。
 - ・ 本機や本機からのコードを車両配線から離します。
 - ・ バッテリー電源コードとPINコードは離します。
 - ・ ノイズサプレッサーを使う場合は、できるだけ本機から離します。
 - ・ アースを取る場所によって、雑音が大きくなる場合があります。そのようなときは、アースを取るポイントを変えてみると解決する場合もあります。

4.1 ベースユニットを取り付ける

1. 取り付け場所を設定する。
 - トランクルームなどが最適です。
2. 取り付け場所の取り付けネジ位置に印をつける。
3. ドリルで3mm径以下の穴を開ける。

⚠ 警告 車体に穴を開ける場合には、パイプ・タンク・電気配線などを傷つけないでください。事故・火災の原因になります。

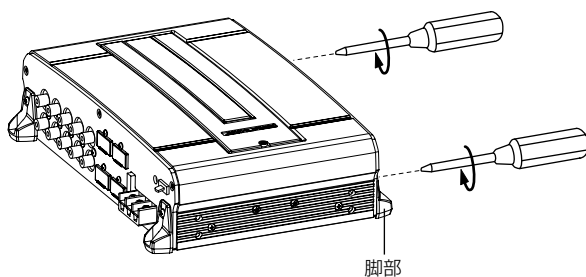
4. 付属のタッピングネジ（M4・長さ14mm）4本で本機をしっかりと取り付ける。



＜本機を2台取り付ける場合＞

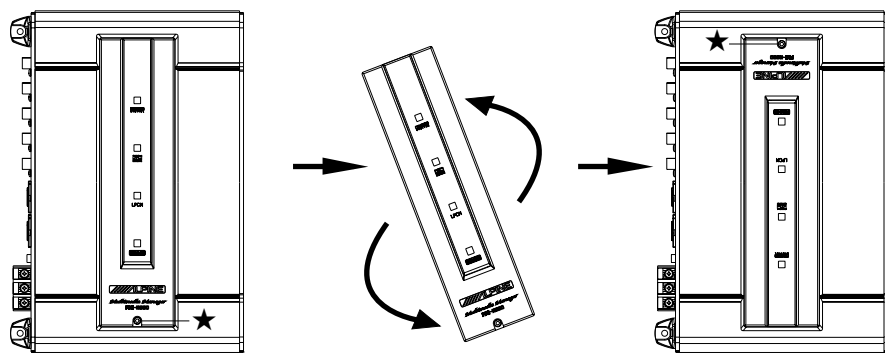
本機を2台取り付ける場合は、まず2台のベースユニットを連結してから、ベースユニットを取り付けます。

1. ベースユニット側面（端子なし側）の脚部のネジを取り外し、ベースユニットから脚部を取り外す。



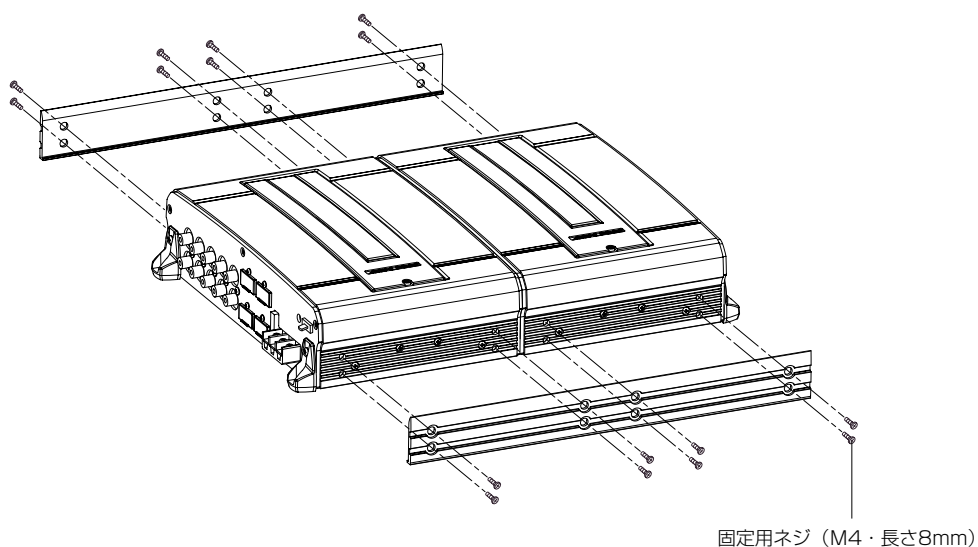
2. 1台のベースユニットの上面の★部のネジを付属の六角レンチ（M3）で取り外し、プレートの向きを反対にして取り付ける。

プレートを取り外した際に、INDICATORスイッチを“REVERSE”に切りかえてください。
（「基本接続図」10ページ参照）



次頁へ続く→

3. 2台のベースユニットの側面を合わせ、付属の固定用ネジ（M4・長さ8mm）でブラケット（付属）を取り付ける。



4. 「4.1 ベースユニットを取り付ける」（6ページ）を参照し、ベースユニットをしっかりと取り付ける。



Memo

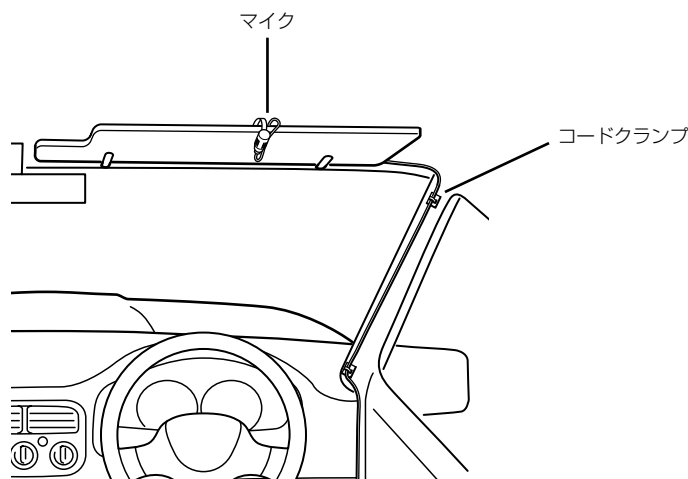
本機を2台接続する場合は、ベースユニット底面の接続台数切りかえスイッチを「DUAL」側に切りかえてください。
（「基本接続図」10ページ参照）

4.2 マイクを取り付ける

1. 取り付け場所を決める。

- 取り付け場所は、お好みの所を選んでください。（サンバイザーをお勧めします。）

2. マイクを取り付ける。



- 別売モニター（TVI-T990）内蔵のマイクを、Road EQ用マイクとして使用することができます。接続に関しては「システムアップの例」（13ページ）を参照してください。
- 本機を2台接続する場合は、2台両方にマイクを接続してください。また、接続した2つのマイクは同じ場所に設置してください。
- 本機2台接続時は、別売モニター（TVI-T990）内蔵のRoad EQ用マイクを使用することはできません。

5. 確認する

1. コード類を固定する。

- シートレールなどの可動部などに挟み込んだり、突起部に当たったりして、コードを傷めないように注意して固定します。

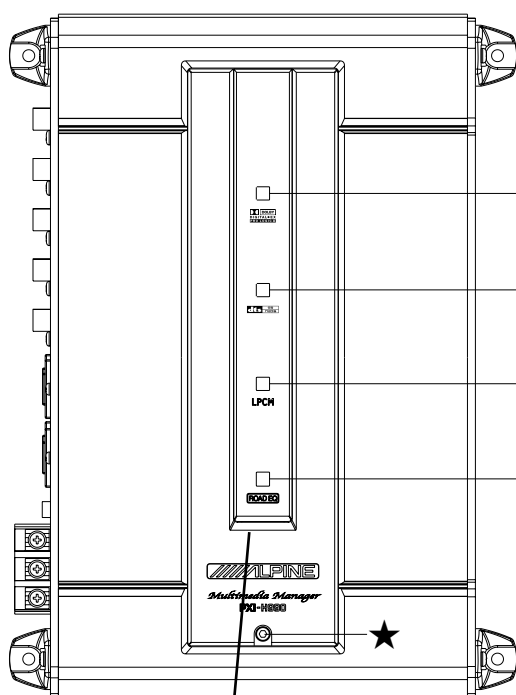
2. バッテリーマイナス端子を接続する。

3. イグニッションキーをONにして、取扱説明書を参考に本機の動作が正しいことを確認する。

4. ホーン（クラクション）、ストップランプなどの車両電装品が正しく動作することを確認する。

● 基本接続図

<天面>



通常、それぞれのインジケータはブルーで点灯しています。

ドルビーデジタルインジケータ
ドルビーデジタルのデコード時に
赤で点灯

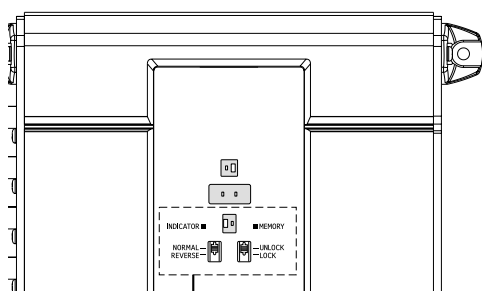
DTSインジケータ
DTSデコード時に赤で点灯

LPCMインジケータ
LPCM (MLP Lossless またはCD-DA)
入力時に赤で点灯

Road EQインジケータ
Road EQ ON時に赤で点灯



付属の六角レンチ (M3) で★の所のネジを取り外してください。



INDICATOR ■

■ MEMORY

NORMAL
REVERSE

UNLOCK
LOCK

<底面部>

DUAL [REAR-
FRONT-
SINGLE-]

接続台数切りかえスイッチ

- 本機を1台のみ接続する場合 SINGLEに設定してください。
- 本機を2台接続する場合 1台目をFRONT、2台目をREARに設定してください。

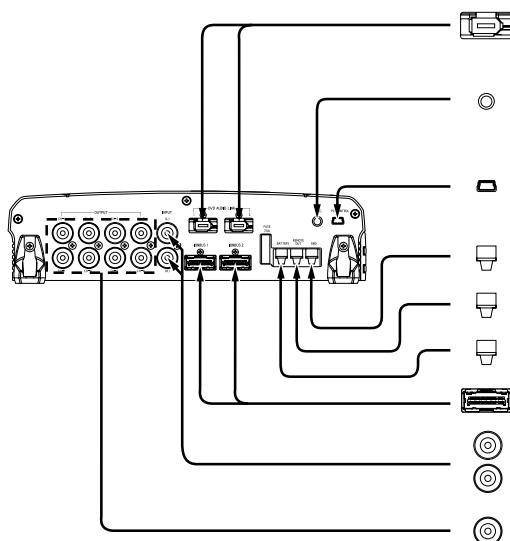
メモリーON/OFF 切りかえスイッチ

設定／調整した内容を記憶できるように (UNLOCK)、またはできないように (LOCK)切りかえます。

インジケータ 切りかえスイッチ

本機を2台接続する場合などに使用します。
2台接続時は、2台目のプレートを取り外した際に
REVERSEに切りかえてください。

<側面>



端子仕様	接続先
DVD Audio Link端子 DVDオーディオ再生用の端子です。	DVD Audio Linkコードを使用して、ヘッドユニットDVI-9990JなどのDVD Audio Link端子に接続
自動調整用マイク端子 自動調整用マイクを接続します。 別売モニター（TVI-T990）内蔵のRoad EQ用マイクを使用するときは本機添付のマイク端子接続コードでモニターのマイク端子に接続します。	本機付属のマイク、または別売モニター（TVI-T990）のRoad EQ用マイク端子に接続
USB端子 パソコンで設定/調整する際に使用します。 USBケーブルとPCソフトが必要になります。 詳しくはお買い上げ店、インフォメーションセンターにお問い合わせください。	USBケーブル(miniBタイプ)でパソコンのUSB端子と接続
アース端子 アースコードで車体の金属部分へしっかりと固定します。	アースコードで車体に接続
リモートアウト端子 アンプなどの周辺機器に接続します。	アンプに接続
バッテリー電源端子 エンジンキーに関係なく常に電源を本機に供給します。	常に電源が供給されるコードに接続
IONBUS端子 IONBUS対応製品とシステムアップするときに使用します。	IONBUSコードを使用して、IONBUS端子に接続
オーディオ入力端子（PIN入力） PIN接続したRCA音声出力を持つビデオなどのオーディオ出力信号を本機に伝えます。	PIN接続の際に使用 組み合わせる製品のオーディオ出力端子に接続
オーディオ出力端子（PIN出力）※ 音声を出力します。	アンプに接続



- DVD Audio Linkコード、IONBUSコード、USBケーブルを接続するときは、DVD Audio Link端子、IONBUS端子、USB端子のカバーを外して使用してください。
DVD Audio Link端子、IONBUS端子、USB端子を使用しないときは、カバーをつけたままにしてください。

※オーディオ出力端子（PIN出力）は接続するスピーカー（システム）によって、下表のように接続先が変わります。

	本機を1台接続			本機を2台接続	
	SYSTEM1	SYSTEM2	SYSTEM3	SYSTEM4 (Front)	SYSTEM4 (Rear)
CH-1	Front L TW	Front L TW	Front L※1	Front L TW	Rear L TW
CH-2	Front R TW	Front R TW	Front R※1	Front R TW	Rear R TW
CH-3	Front L WF※1	Front L MID※2	Front C	Front L MID※2	Rear L WF
CH-4	Front R WF※1	Front R MID※2	Sub WF 1	Front R MID※2	Rear R WF
CH-5	Rear L	Front L WF※2	Rear L	Front L WF※2	Rear C TW
CH-6	Rear R	Front R WF※2	Rear R	Front R WF※2	Rear C WF
CH-7	Front C	Sub WF 1	Rear C	Front C TW	Sub WF 1
CH-8	Sub WF	Sub WF 2	Sub WF 2	Front C WF	Sub WF 2

※1 OFF設定はありません。

※2 MIDとWFの両方をOFFにすることはできません。

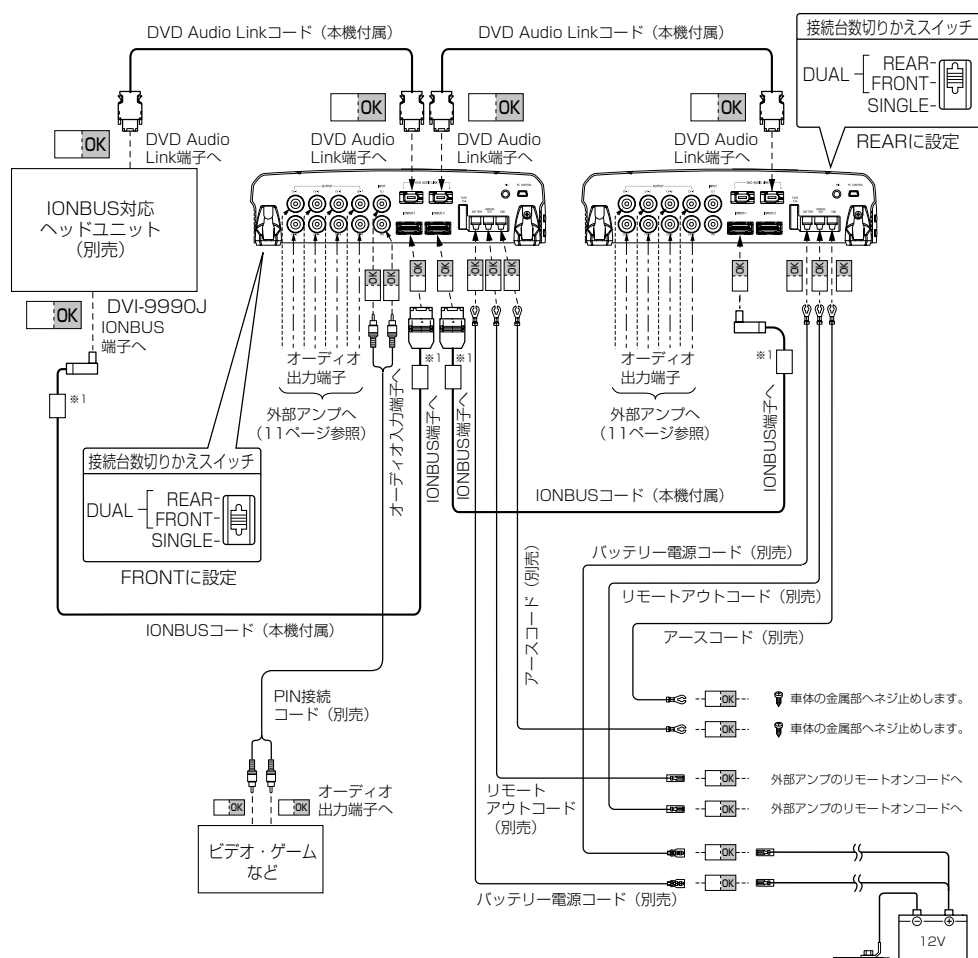
どちらか一方をOFF設定にした場合、もう一方はOFF設定にすることができません。



- スピーカー（システム）に応じて設定が必要になります。（取扱説明書「スピーカーの設定をする」参照）
● ツィーターは、上記表の“TW”表記のチャンネル以外には接続しないでください。スピーカー破壊の原因になります。
● SYSTEM1はREAR TWは接続できません。
● SYSTEM3はFRONT/REAR共にTW接続はできません。

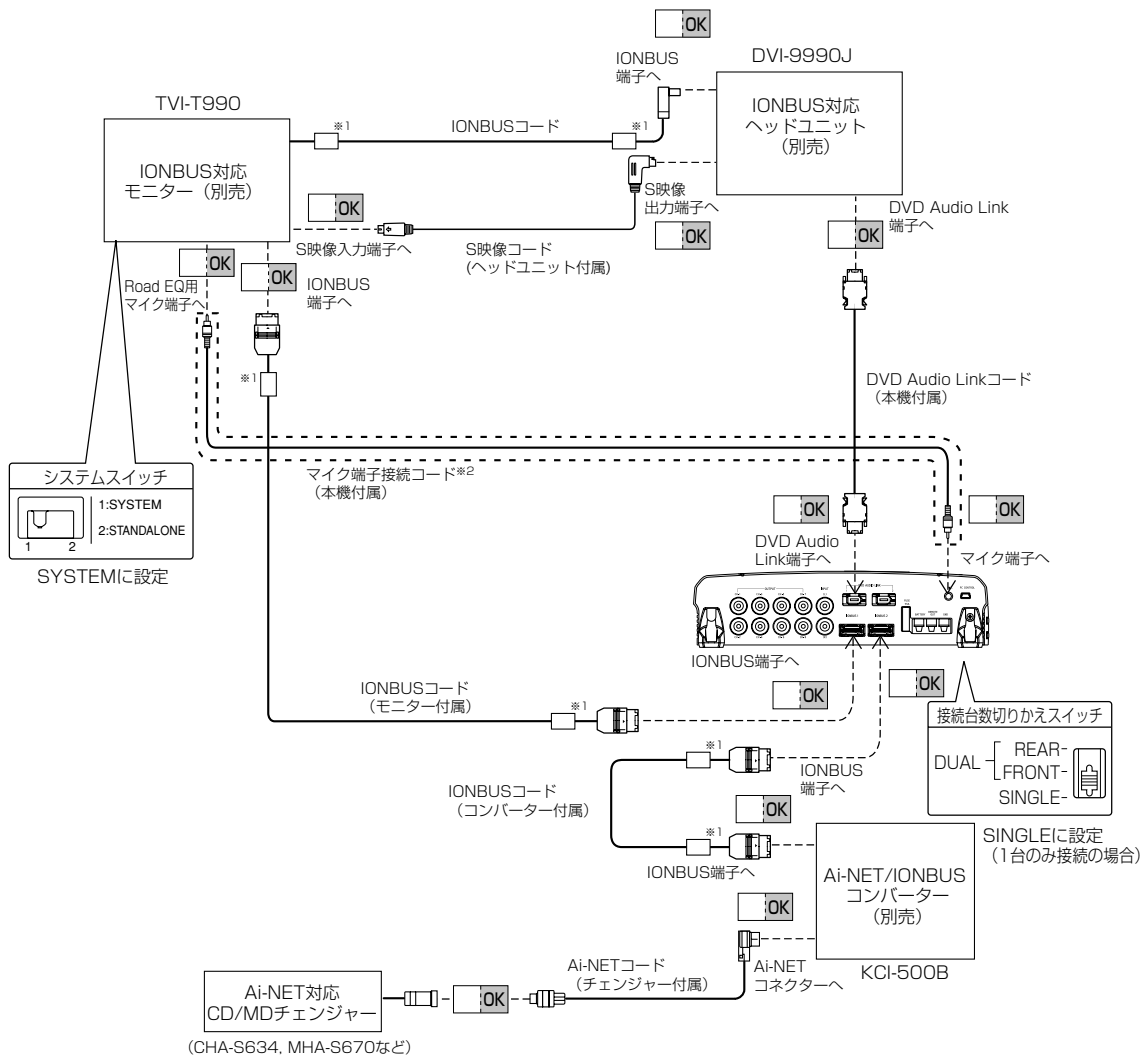
6. システムアップの例

● 本機+ヘッドユニットDVI-9990J+外部アンプ+ビデオなど



※1 フェライト・コア (「3. 接続する」5ページ参照)

● 本機+ヘッドユニットDVI-9990J+モニターTVI-T990
+Ai-NET対応チェンジャーの接続



- ※1 フェライト・コア（「3. 接続する」5ページ参照）。フェライト・コアは、PXI-H990、TVI-T990、KCI-500Bに同じものが2ヶずつ添付されています。
- ※2 TVI-T990内蔵のマイクをRoad EQ用マイクとして使用する場合のみ接続します。その他の場合は本機付属のマイクを接続してください。

- IONBUS対応製品は、どのような順番でも接続できます。上記接続順は一例です。
- Ai-NET対応チェンジャーを接続しない場合は、KCI-500Bを接続する必要はありません。
- 詳しい接続に関しては、組み合わせる製品の説明書を参照してください。

- 製品の規格および外観は、改良のため予告なく変更する場合があります。
- 本説明書のイラストは、印刷条件により、印象が異なる場合があります。
- 本書の一部または全部を無断で転載しないでください。
- 本製品は国内専用です。



お問い合わせはインフォメーションセンターへ

- インフォメーションセンター
TEL : 048-662-6636
- インフォメーションセンター西日本分室
TEL : 06-6386-2236
- 電話受付時間 土日祝日、弊社休業日を除く9:30~17:30
- 電話は混雑が予想されます。FAXでのお問い合わせをおすすめします。
FAX : 048-662-6676
- アルパインホームページ : <http://www.alpine.co.jp>



古紙配合率100%再生紙を使用しています

アルパイン株式会社

Designed by ALPINE Japan

Printed in Japan (S)

68-00323Z26-A